



国内関係筋から多くの引き合いがよせられており、今後の需要増が期待されている。

おもな規格

送信機 CH-401R	
回路方式	本品発振オーバートーン方式
使用石数	4石(トランジスタ)
送信周波数	27.035 Mc
出力	50 mW
外形寸法	幅65×高さ100×奥行34 mm
重量	225 g(日立乾電池とも)
受信機 GH-501R	
回路方式	5石トランジスタ局発本品 制御スーパーヘテロダイン
受信周波数	27.035 Mc
音声出力	10mW(イヤホンにて聴取)
外形寸法	幅55×高さ80×奥行25 mm
重量	115 g(日立乾電池とも)

第3の電波 FM ステレオ放送がそのまま聞ける

<FM ステレオアダプター内蔵の第2弾>

“シンフォニカ 6900” 発売

本年7月中に全国27局(既局10局、新設17局)でFMステレオ放送が開始され、これにより全国の7割以上の地域でFMステレオ放送を聞くことが可能になる。この本格的なFMステレオ時代の需要に即応するため、去年12月に発売し好評を博したシンフォニカ480に次ぐFMステレオアダプター内蔵の第2弾“シンフォニカ6900”を現金正価63,800円で発売した。

このシンフォニカ6900は、新開発の高感度双四極管17C9およびAFC回路つきの高性能FMチューナを採用しており、さらにシンクロナスモートルつきオートプレーヤー、4スピーカーシステム、オートドア、方向可変式フェライトアンテナ内蔵、録音端子など、画期的な新機能を備えたステレオである。

おもな特長

- (1) FMステレオアダプター内蔵の高性能FMチューナ採用
 - ① アダプターには新開発のパイロット信号除去回路(実用新案申請中)を採用しているため、分離度が高く、ひずみの少ないFMステレオ放送が楽しめる。
 - ② AFC(自動周波数調整)回路つきなので同調は簡単、長時間安定した受信が楽しめる。
 - ③ FM回路には高利得、低雑音の新開発双四極管17C9を採用。



第23図 FMステレオアダプター内蔵の第2弾
“シンフォニカ 6900”

用。

- (2) シンクロナスモートル採用のオートプレーヤー(ダイヤ針つき)。

① オートスタート、オートリターン、オートカット、スリープの4機能がすべて自動的にできる。

② 電圧変動に対しても回転数の一定なシンクロナスモートル採用。

③ どんなにかたむけても針とびしない<SBビッタアップ>

④ ホノモートルからのゴロ音をなくした<MBプレーヤー>

- (3) 低音用20cmと高音用5cmの4スピーカーシステム
コーン紙に独自の設計を加え周波数特性を全音域にわたって改良した音質のよい20cm PMスピーカー採用(特許出願中)

- (4) 90度方向可変式フェライトアンテナ内蔵
快適な受信ができる。据付に便利な90度方向可変式。

- (5) 便利なオート・ドア採用(実用新案出願中)

上ぶたは片手で手軽に開閉できる軽快なオートクッション方式のほかにも

音に奥行きを加える残響装置、ラウドネスコンペンセータ(聴覚補正装置)、録音端子、レコード照明、光沢のよいポリエスチル塗装などを採用している。

現金正価63,800円 月賦正価67,300円(12箇月払い)

<電子の耳> レベルマチックつきの

“ベルソーナJジュニアデラックス”

このセットは、4月に発売した現金正価16,500円のベルソーナJジュニア(TRQ-550)の特長をすべて採用したうえでテーブカウンターつき、トーンコントロールつき、5号テープをかけたままふたがしまり、さらにマイクロホン、AC電源コードなど、付属品がすべてセットに収納できるコンパクトタイプである。

販売の対象はジュニア族でも学習の能率を上げるテープレッスンとHi-Fi音楽も楽しもうとする人々を対象として、ベルソーナJジュニアシリーズのキャンペーンの一環として拡販する。

おもな特長

- (1) レベルマチック(録音レベル自動調節装置=実用新案出願中)

録音中に大きな入力信号がはいった場合でも、レベルマチック回路によりひずみが少ない常にきれいな録音ができる。

- (2) 5号クラスでは最高の音質と音量で音楽も十分楽しめる。

回転むらの少ない安定したメカニズムと16×8cmの高性能な大形だ円スピーカーで最大1.5W以上の豊かな音量により、ダイナミックなシンフォニックトーンを再生する。

- (3) 日立独特のすぐれた取扱性

<ワンハンドコントロール方式>はもちろん、特にテープレッスンなど反ぶく操作するのに非常に便利な機能としてテーブカウンターも採用する。

- (4) テープレッスンの必要な条件をそなえている。

2スピード、最大5号テープ使用、イヤホンモニター



第24図 レベルマチックつきテープレコーダー
“ベルソーナJジュニアデラックス”



可能などの特長のほかに、さきのテープカウンター、トーンコントロール、レベルメーターなど、採用しているので大形をしのぐ使いみちの広いセットである。

(5) お求めやすい価格

3万円クラスの性能をもちながら、価格は若い層でも購入できるよう特に吟味した23,800円とした。

音質本位の高級FMつきテーブルラジオ
“ハイフォニックF-666”発売

このほど日立製作所では、FM/AMラジオのニューモデルとして“ハイフォニックF-666”を発売した。

本機は、FMのほかに普通(中波)の放送も楽しめるFM/AM6球2バンドで、FMの特長である音質のよさを生かすために、2スピーカーシステムに、音響効果が特にすぐれた高級木製キャビネットを使用し、さらに妨害雑音を完全に除去するシールド形FMチューナを採用している。

デザインは、前面に金色の高級サランネットを張り、その下部にコントロールパネルを配した豪華なデザインになっている。

現金正価12,500円 月賦正価13,200円(12箇月払)。

おもな特長

- (1) FM専用の高感度真空管日立“17EW8”を含む6球2バンドで、FMのほかに、普通の放送も受信できる。
- (2) 10cm 2スピーカーシステムで豊かなシンフォニックトーンが楽しめる。
- (3) 完全シールドのFMチューナを採用しているため、雑音のない受信ができる。
- (4) このクラスでは最高級の高級木製キャビネットを採用しているため、2スピーカと相まって音響効果がいちだんとすぐれている。



第25図 FM/AMテーブルラジオ“ハイフォニックF-666”

- (5) 高感度フェライトアンテナを内蔵しているため、普通の放送は外部アンテナなしで受信できる。
- (6) 連続可変形の音質調節装置つき。
- (7) イヤホン、レコードプレーヤー、テープレコーダーの各接続端子つき。

おもな規格

回路方式	FM/AM6球2バンドスーパーヘテロダイナ
受信周波数	FM 76~90 Mc AM 530~1605 kc
使用真空管	17EW8, 12BA6, 12BE6, 12BA6, 12AV6, 30A5
ゲルマニウム	
ダイオード	1N60×2
シリコン	
ダイオード	1S315
出力	最大2W.....無ひずみ1.5W
電源	AC 100V 32VA
アンテナ	フェライトアンテナ内蔵、外部アンテナ線付 イヤホンジャック.....1個(日立E-231 クリスタルイヤホン使用)
外形寸法	幅45×高さ23×奥行17cm
重量	3.7kg

……………編集後記……………

小形タービンは、電源の状態に関係なく絶対的な信頼性を要求されるところ、周囲の爆発性ガスなどのために電動機の使用不可能なところ、蒸気が安価に供給できるところなどや、あるいは電動機の子備機として使用される。「新標準日立小形タービン」では、1,000kW以下のタービンを対象にその特長ならびに小形タービン全般にわたる技術的問題点について述べている。産業界の設備拡充に伴い小形タービンの需要は増大の傾向にあり、本論文は、その選定にあたって貴重な資料とならう。

電力輸送の近代化に伴い、発電所機器の単機容量は増大化の一途をたどっている。変電所用としては、300MVA級の変圧器が続々製作されようとしており、また500kV級送電の技術的検討も着々進んでいる。これら超高压大容量機器の製造工場から現地への輸送にあたって、変電所機器のほとんどは鉄道による組立輸送となり、輸送上の寸法、重量が制約されるため、組立輸送限界拡大についての研究が望まれている。「275kV 350,000kVA 変圧器の組立輸送」では、中部電力株式会社西名古屋変電所に納入した等価容量350,000kVAの超大型変圧器の貨車輸送の問題点と巻線、鉄心および冷却構造などの特長を中心に解説している。

◎
本号の特集は、「マイクロモジュール技術の展望」「マイクロモジュール用基板と特性」「マイクロモジュール用タンタルコンデンサの交流特性」「マイクロモジュール用水晶振動子およびインダクタンス」「マイクロモジュール組立上の諸問題」など10編の論文を収録し「マイクロモジュール特集」とした。マイクロモジュール方式については、数年来の研究により、すでに通信機器への活用において十分実用性のあることが確かめられており、他の多くの分野においてもマイクロモジュールを使用して、機器の超小形化への努力が続けられている。本特集は、日立製作所におけるマイクロモジュール技術と、その研究の成果を紹介したものであり、貴重な論文集として読者諸賢のご期待にこたえらるものと信ずる。

◎
一家一言欄には、東京大学宇宙航空研究所長 高木昇氏より、「超小形化への道」と題する玉稿をいただくことができた。本文は、超小形化の問題がとりあげられて以来、この道の研究に没頭されてこられた、氏の貴重な経験を通して今後のマイクロモジュール技術を展望されたもので、特に傾聴すべき至言である。ご多用中にもかかわらず、寸暇をさいて特に本誌のために稿を草されたご厚情に対し、深く感謝の意を表する次第である。

<p>日立評論 第46巻 第7号</p> <p>昭和39年7月20日印刷 昭和39年7月25日発行</p> <p>(毎月1回25日発行)</p> <p>＜禁無断転載＞</p> <p>定価1部150円(送料30円)</p> <p>© 1964 by Hitachi Hyoronsha Printed in Japan</p> <p>乱丁落丁本は発行所でお取りかえいたします</p>	<p>編集兼発行人 伊 藤 康</p> <p>印刷人 浅 野 浩</p> <p>印刷所 株式会社日立印刷所</p> <p>発行所 日立評論社</p> <p> 東京都千代田区丸の内1丁目4番地</p> <p> 電話 東京(211) 1411(大代)</p> <p> 振替口座 東京71824番</p> <p>取次店 株式会社 オーム社書店</p> <p> 東京都千代田区神田錦町3丁目1番地</p> <p> 振替口座 東京20018番 電話 東京(291)0912</p>
--	---

広告取扱店 株式会社 日盛通信社 東京都中央区銀座西7丁目3番地 電話 東京(571)5181(代)